

2007年3月9日

報道関係各位

エクソンモービル有限会社  
広報渉外部  
TEL: 03-6713-4400

## エクソンモービル、新型タンクローリーMEUを発表

エクソンモービル有限会社は、2007年3月7日(水)、富士スピードウェイ(静岡県駿東郡)において、新型タンクローリーMEU(Most Efficient Unit)の発表・試乗会を開催しましたのでお知らせいたします。

このイベントは、主に石油運送会社の方々を対象として、エクソンモービル・ジャパングループが導入を予定している新型の大容量タンクローリーMEUに実際に試乗していただき、MEUの仕様や性能、優れた点について理解を深めてもらうことを目的に開かれました。当日は、全国の石油運送会社幹部など関係者約200人が参加し、富士スピードウェイのピットビルにて説明が行われた後、サーキットの外周路を使ってタンクローリーの試乗会が開催されました。

今回発表した新型タンクローリーMEUは、徹底した軽量化により全長を伸ばさずに積載量を増やすことができ、配送回数の削減による効率の飛躍的な向上を可能にしました。また、低燃費エンジンの搭載や日本のトラック業界初となるスーパーシングルタイヤの採用により、従来型のタンクローリーと比べ、約15~20%の燃費向上を見込んでいます。積載量18KL、24KL、30KLの3タイプのセミトレーラーがラインナップされます。

エクソンモービルグループは、自動配送(ASR/TDO)導入(1997年)やドライバー単独荷卸(DCD)開始(2000年)など、日本において業界に先駆け配送効率の向上を図ってきました。今回のMEU導入により、さらなる配送の効率化に取り組みます。また、配送回数の削減と燃費の向上により、タンクローリーからの二酸化炭素排出量削減効果も期待できます。

以上

添付: 新型タンクローリーMEU概要  
当日イベントの写真(発表・試乗会の様子)

## (新型タンクローリーMEU 概要)

### 1. 軽量化されたトラクタヘッド(米ケンワース T350)

従来のキャブオーバー型ではなく、ボンネット型のケンワース社の T350 をトラクタヘッドとして採用。車体や部品にグラスファイバー、アルミニウムなどの軽量素材を用いるなど徹底した軽量化により、従来車より約 1 トンの軽量化を実現。また、汎用部品の有効利用によりランニングコストの低減を図っています。

### 2. 優れた耐久性(米ケンワース T350)

T350 は、最新のテクノロジーと部品を使用することにより、弊社従来仕様のタンクローリーの安全走行距離を 30~40%延長することが期待できます。

### 3. 全長を伸ばさず積載量を最大化

トラクタヘッドとトレーラー双方における徹底した車体軽量化を実現。さらに、ボンネット型トラクタヘッドの採用により、最遠軸距離を伸ばすことが可能となり、全長を伸ばすことなく積載量を最大化できます。

### 4. シングルタイヤ(ミシュラン製)の採用

ミシュラン製のトラック用シングルタイヤ「X One(エックスワン)」を日本で初めて採用。従来のダブルタイヤをシングル化することで軽量化を実現し、積載量の最大化により配送効率の向上を図ります。また、転がりの低減により、燃費効率が 2%高まります。また、タイヤのシングル化により破棄されるタイヤが減り、環境性能も向上します。

### 5. リフトアクスル

トレーラー(後2軸車)に昇降可能なリフトアクスルを採用。空荷時に 1 軸を上げて走行させると、“特大車”から“大型車”に区分が変わるため、高速道路の通行料金を 40%軽減でき、さらにタイヤの磨耗も半減できます。



写真: 3月7日に富士スピードウェイで開かれた発表・試乗会の様子